

陸連時報 三

2016
平成28年

2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2016年度主要競技会日程(案).....	230
年頭にあたって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
強化関連情報(強化委員会).....	236
第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会(ベトナム・ホーチミン/2016)日本代表選手選考要項	
第16回世界ジュニア陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項	
安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト.....	237
2015年度競技運営委員会研修会報告 JTOs・JRWJs育成セミナー(競技運営委員会).....	238
2015年度全国区域技術役員会議報告(施設用器具委員会).....	239
日本陸連アスレティック・アワード2015報告(事務局).....	240
2015数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技).....	242
大会観戦ガイド.....	243
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2016年度主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2016年3月の理事会で最終承認されます。

	主催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	17(日)	100 日本選手権50km競歩	石川	2(土)	★ 25 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	17(日)	18 長野マラソン	長野	16(土)~17(日)	★ 70 出雲陸上	浜山(島根)			
5月	8(日)	ゴールデングランプリ	等々力(神奈川)	24(日)	★ GP① 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
				29(金・祝)	★ GP② 織田記念陸上	広域公園(広島)			
6月	11(土)~12(日)	62 全日本中学通信陸上	各地	30(土)~5/1(日)	★ GP③ 日本選抜陸上和歌山	紀三井寺(和歌山)	28(木)	アジアグランプリ①	
	11(土)~12(日)	100 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	3(火・祝)	★ GP④ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	2(月)	アジアグランプリ②	
7月	24(金)~26(日)	100 日本陸上競技選手権	瑞穂(愛知)	5(木・祝)*予定	★ 16 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)	5(木)	アジアグランプリ③	
				7(土)	★ 27 ゴールデングームズ in のべお	延岡(宮崎)	未定	世界競歩チーム選手権	未定
8月	20(土)	32 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)	8(日)	★ 26 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
	21(日)~24(水)	43 全国中学陸上	松本平(長野)	15(日)	★ 6 ぎぶ清流ハーフマラソン	岐阜			
9月	24(水)~25(木)	51 全国高専陸上	瑞穂(愛知)	10(日)	○ '16 日本学生個人	平塚(神奈川)	2(木)~6(月)	17 アジアジュニア陸上競技選手権	ホーチミン(ベトナム)
	27(土)~28(日)	4 全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長良(大阪)	23(土)	★ 31 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
10月	7(金)~11(火)	71 国民体育大会	北上(岩手)	10(日)	★ 29 南部記念陸上	厚別(北海道)	3(日)*予定	3 日中韓3カ国交流陸上	金泉(韓国)
	21(金)~23(日)	32 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	23(土)	★ 56 実業団・学生対抗	平塚(神奈川)	未定	16 世界ジュニア陸上競技選手権	未定
11月	21(金)~23(日)	10 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	7(日)	★ 41 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)	12(金)~21(日)	31 オリンピック競技大会	リオデジャネイロ(ブラジル)
	28(金)~30(日)	100 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	28(日)	★ '16 北海道マラソン	北海道	23(火)~29(月)	24 日・韓・中ジュニア交流競技会	寧波(中国)
12月	28(金)~30(日)	47 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	2(金)~4(日)	○ 85 日本学生対校	熊谷(埼玉)		'16 デカネーション	(フランス)
				17(土)~19(日・祝)	37 全日本マスターズ	フェリスカススタジアム(新潟)			
2017 1月	4(日)	70 福岡国際マラソン	福岡	23(金)~25(日)	★ 64 全日本実業団	ヤンマースタジアム長良(大阪)			
	11(日)	19 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	10(月・祝)	○ 28 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
2月	18(日)	24 全国中学駅伝	滋賀	23(日)	55 全日本50km競歩高島	山形			
	25(日)	67 28 全国高校駅伝	京都	30(日)	13 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
3月	5(日)	72 びわ湖毎日マラソン	滋賀	30(日)	6 大阪マラソン	大阪			
	12(日)	'17 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	30(日)	○ 34 全日本大学女子駅伝	宮城	26(水)~11(日)	22 世界マスターズ陸上競技選手権	パース(オーストラリア)
3月	19(日)	41 全日本競歩能美	石川	6(日)	○ 48 全日本大学駅伝	愛知・三重			
				13(日)	32 東日本女子駅伝	福島			
3月				27(日)	36 全日本実業団女子駅伝	宮城			
				日程調整中	6 神戸マラソン	兵庫			
3月				11(日)	16 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
				23(金・祝)	35 山陽女子ロードレース	岡山			
3月				日程調整中	28 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
				日程調整中	47 防府読売マラソン	山口			
3月				日程調整中	○ '16 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
				1(日・祝)	65 元旦競歩	東京			
3月				1(日・祝)	61 全日本実業団駅伝	群馬			
				29(日)	'17 大阪ハーフマラソン	大阪			
3月				5(日)	66 別大マラソン	大分			
				5(日)	71 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
3月				12(日)	57 唐津10マイル	佐賀			
				12(日)	45 実業団ハーフマラソン	山口			
3月				19(日)	51 青梅マラソン	東京			
				19(日)	61 熊日30キロロードレース	熊本			
3月				19(日)	'17 京都マラソン	京都			
				5(日)	○ 20 日本学生ハーフマラソン	東京			
3月				19(日)	○ 11 日本学生20km競歩	石川	19(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	石川
				19(日)	38 まつえレディースハーフマラソン	島根			
3月				日程調整中	20 日本学生女子ハーフマラソン	未定	26(日)	42 世界クロスカントリー選手権大会	カンパラ(ウガンダ)

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

IAU100km世界選手権 未定

2016年 年頭にあたって



新年、明けましておめでとうございます。
2016年の年頭に当たりご挨拶を申し上げます。

昨年の日本陸上競技界は、到達の年でもあり、また、出発の年でもありました。

2015年3月8日、日本陸上競技連盟は90周年の節目を迎えました。1925年の創立以来、陸上競技に携わる多くの方々の永年にわたるご尽力、ご支援のたまものであると深く感謝申し上げます。100周年という更なる大きな節目に向けて、なお一層の努力を傾注してまいり所存でございます。

本年は、第31回オリンピック競技大会・第15回パラリンピック競技大会がブラジル・リオデジャネイロで開催されます。2013年、第32回オリンピック競技大会・第16回パラリンピック競技大会が、国際オリンピック委員会総会において“TOKYO”のコールで決定してから、2020年の開催まで5年を切りました。その前哨戦となるリオデジャネイロオリンピックでは、日本全国で盛り上がるスポーツの機運を東京オリンピックに向けて昇華させるために、日本代表選手の活躍が必要であります。本連盟は、これまで以上に競技力の向上に努めてまいります。

昨年の世界陸上競技選手権大会は、日本代表選手53名のうち30名が初代表選出の布陣で臨み、残念ながらメダル獲得目標には届かなかったものの、競歩種目でオリンピック、世界選手権を通じて初めてのメダルを獲得しました。また、世界ユース陸上競技選手権大会では、金メダル3、銀メダル1、銅メダル1を獲得し、同大会史上最高の成績を収めました。ジュニア・ユース世代の育成・強化が数年来の成果として実を結び始めており、東京での活躍が期待される若い競技者がトップアスリートに成長し、世代交代が進みつつあります。世界の大舞台での活躍を期して各種施策を推し進め、ベテラン勢の円熟味の増大とともに、将来を担う若い芽を育ててまいります。更に、日本が世界の舞台で活躍するためには、競技者のみならず指導者が国際的な経験や指導力を身に付けることが喫緊の課題と考えております。指導者は、陸上競技の裾野の拡大やジュニア・ユース選手の育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。本連盟は、国際的な指導者の養成を目標に掲げ、様々な施策に取り組んでまいります。

また、少子化が叫ばれている現代において、各種競技大会や講習会の開催などの活動を通じて、スポーツの基本である「走・跳・投」の陸上競技の普及育成活動に努めてまいりますとともに、子供たちが陸上競技に対して興味や関心を持ち、気軽に陸上競技を始めることが出来る環境を作りたいと考えております。そして、2020年以降も陸上競技界が発展するように育成の土壌を育ててまいります。

スポーツ界を取り巻く環境は、社会経済とも密接に関係しており、変化や進化を続けております。本連盟は、世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たしてまいります。私自身、昨年8月、国際陸上競技連盟カウンスルメンバーに就任し、引き続き国際的なポジションを獲得できたことで2020年に向けて、世界の最新情報がいち早く継続して日本に届くこととなります。国際陸上競技連盟とともに本連盟の組織力を更に充実させていき、スポーツの振興はもとより、競技者も含めた多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいりたいと思っております。

今一層、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶いたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

理事会報告

日時：2015年12月16日（水）13時00分～15時24分
場所：ザ・プリンスパークタワー東京 B2階「コンベンションホール」

【議題】

<協議事項>

1. 2016年度主要競技会日程
2. 第101回（2017年度）・第102回（2018年度）・第103回（2019年度）日本陸上競技選手権大会開催地
3. 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）トラック&フィールド種目代表選手選考要項
4. 第100回日本陸上競技選手権大会参加資格
5. 第100回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格
6. 第73回（2018年度／福井）・第74回（2019年度／茨城）国民体育大会実施種目
7. スポーツ活動支援制度規程の改定について
8. 強化競技者規程の改定について
9. 2016年度強化競技者
10. 競技会における広告および展示物に関する規程の改定について

<報告事項>

1. 内閣府立入検査報告
2. 財務長期計画及び長期資金繰り表の作成について
3. 特別委員会委員の選任
・コンプライアンス委員会委員
・後援競技会認定委員会委員
4. 加盟団体連絡協議会報告
5. その他

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数30名、出席者数25名（2名遅刻にて出席のため計27名出席となった）で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

<協議事項>

1. 2016年度主要競技会日程
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（230頁参照）。
2. 第101回（2017年度）・第102回（2018年度）・第103回（2019年度）日本陸上競技選手権大会開催地
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り、第101回は大阪（ヤンマースタジアム長居）、第102回は山口（維新百年記念公園陸上競技場）、第103回は福岡（博多の森陸上競技場）での開催が承認された。
3. 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）トラック&フィールド種目代表選手選考要項（資料1参照）
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
4. 第100回日本陸上競技選手権大会参加資格（資料2参照）
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
5. 第100回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格（資料3参照）
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
6. 第73回（2018年度／福井）・第74回（2019年度／茨城）国民体育大会実施種目（資料4参照）
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
7. スポーツ活動支援制度規程の改定について
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり規程名を競技継続助成制度規程とし、原案の通り承認された（規程の全文は資料5参照）。
8. 強化競技者規程の改定について
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（規程の全文は資料6・7参照）。
9. 2016年度強化競技者（資料8参照）
麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
10. 競技会における広告および展示物に関する規程の改定について
鈴木理事・競技運営委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。

<報告事項>

1. 内閣府立入検査報告
尾縣専務理事より、2015年11月5日に受けた内閣府の「法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査」について、大きな問題はなかったという報告があった。
2. 財務長期計画及び長期資金繰り表の作成について
尾縣専務理事より、次回2016年3月の理事会で、5年間に亘る財務長期計画及び資金繰り表を提案することの報告があった。
3. 特別委員会委員の選任（コンプライアンス委員会委員／後援競技会認定委員会委員）
尾縣専務理事より、2015年9月30日付けの強化委員長の変更に伴い、コンプライアンス委員会、後援競技会認定委員会の2つの委員会の委員が原田康弘理事から麻場一徳強化委員長の変更の選任について報告があった。
4. 加盟団体連絡協議会報告
尾縣専務理事より、2015年9月・10月に行った加盟団体連絡協議会での各地域からの主要要望、質問内容について報告があった。地域選手権の活性化については、会議体を設けて別途協議を行う予定の旨の報告があった。
5. その他
横川会長より新国立競技場についての報告、山澤理事・医事委員長よりドーピング問題についての報告があった。

資料1

第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）

トラック&フィールド種目代表選手選考要項

1. 編成方針

本大会での活躍が期待できる競技者を中心として、メダル獲得及び入賞を目指すチームを編成する。
加えて、第32回オリンピック競技大会（2020／東京）で活躍が期待される競技者を選考する。

2. 選考競技会

- (1) 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）
- (2) 第100回日本陸上競技選手権大会
- (3) 第100回日本陸上競技選手権大会・混成競技
- (4) 2016日本グランプリシリーズ（2016／神戸・広島・和歌山・静岡）
- (5) ゴールデングランプリ陸上2016川崎

3. 選考基準

各種目の参加標準記録の水準の違いや、国際陸上競技連盟（以下、「IAAF」）invitationによる追加条件の違いから、種目別の選考基準を下記の通り定める。

- (1) 男子100m、200m、400m／女子100m、200m、400m

1) 内定条件

① 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）（以下、「北京世界選手権」という）の各種目8位以内の成績を取った日本人最上位の競技者

② 派遣設定記録を満たし、第100回日本陸上競技選手権大会（以下、「日本選手権」という）8位以内の成績を取った最上位の競技者

③ 参加標準記録を満たした、日本選手権優勝者

2) 日本選手権終了時点の選考条件

① 日本選手権において8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者

② 日本選手権において3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者

③ 2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリ陸上2016川崎（以下、「ゴールデングランプリ」という）において日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。

④ 選考条件①、②、③に該当しない、強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者

3) 日本選手権終了後（2016年6月28日以降）の追加条件

① 2016年6月28日以降7月11日までの追加条件

a) 選考基準（5）で既にリレー要員として選考され、参加標準記録を満たした競技者

② 2016年7月12日以降のIAAF invitationによる追加条件

a) 選考基準（5）で既にリレー要員として選考された競技者

b) 強化委員会が推薦する競技者

(2) 男子800m、1500m、110mH、400mH、3000mSC／女子800m、1500m、100mH、400mH、3000mSC

1) 内定条件

① 北京世界選手権の各種目8位以内の成績を取った日本人最上位の競技者

② 派遣設定記録を満たし、日本選手権8位以内の成績を取った最上位の競技者

③ 参加標準記録を満たした、日本選手権優勝者

2) 日本選手権終了時点の選考条件

① 日本選手権において8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者

② 日本選手権において3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者

③ 2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。

④ 選考条件①、②、③に該当しない、強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者

3) 日本選手権終了後（2016年6月28日以降）の追加条件

① 2016年6月28日以降7月11日までの追加条件

a) 日本選手権で8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者

b) 日本選手権で3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者

・2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。

・選考基準（5）で既にリレー要員として選考された競技者

c) 強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者

② 2016年7月12日以降のIAAF invitationによる追加条件

a) 日本選手権で3位以内の成績を取め、Invitation追加条件記録を満たした競技者

・2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、Invitation追加条件記録を満たした競技者
※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。

・選考基準（5）でリレー要員として選考された競技者

b) 強化委員会が推薦する競技者

(3) 男子5000m、10000m／女子5000m、10000m

1) 内定条件

① 北京世界選手権の各種目8位以内の成績を取った日本人最上位の競技者

- ②派遣設定記録を満たし、日本選手権8位以内の成績を取った最上位の競技者
 ③参加標準記録を満たした、日本選手権優勝者
- 2) 日本選手権終了時点の選考条件
 ①日本選手権において8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者
 ②日本選手権において3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
 ③2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者 ※ただし、日本選手権で8位以内に入賞することを条件とする。
 ④選考条件①、②、③に該当しない、強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者
- 3) 日本選手権終了後(2016年6月28日以降)の追加条件
 追加条件は設定しない。
- (4) 男子 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、十種競技
 女子 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技

1) 内定条件

- ①北京世界選手権の各種目8位以内の成績を取った日本人最上位の競技者
 ②派遣設定記録を満たし、日本選手権8位以内の成績を取った最上位の競技者
 ③参加標準記録を満たした、日本選手権優勝者
- 2) 日本選手権終了時点の選考条件
 ①日本選手権において8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者
 ②日本選手権において3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
 ③2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者 ※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。
 ④選考条件①、②、③に該当しない、強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者
- 3) 日本選手権終了後(2016年6月28日以降)の追加条件
 ①2016年6月28日降時7月11日までの追加条件
 a) 日本選手権で8位以内の成績を取め、派遣設定記録を満たした競技者
 b) 日本選手権で3位以内の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
 ・2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者 ※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。
 c) 強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者
 ②2016年7月12日以降のIAAF invitationによる追加条件
 a) 日本選手権で3位以内の成績を取った競技者
 ・2016日本グランプリシリーズ、またはゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取った競技者 ※ただし、日本選手権に出場することを条件とする。
 b) 強化委員会が推薦する競技者

- (5) リレー種目
 リレー種目の代表の選考は、個人種目に準じて選考するが、リレーの特性を考慮する。
 なお、2016年度はワールドリレーズが開催されないため、ナショナルリレーチームの優位性は特に定めない。

4. 選考方法

- (1) 日本選手権終了時点の選考
 1) 「内定条件」による選考は、該当者が3名以内の場合に即時内定とする。
 ただし、該当者が4名以上の場合は、日本選手権終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。
 2) 「日本選手権終了時点の選考条件」による選考は、日本選手権終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会(2016年6月27日予定)において決定する。
 3) リレー種目については、すでに出場権を獲得している男子4×100mリレーは、理事会において決定する。また、男子4×400mリレー、女子4×100mリレー、女子4×400mリレーについては、理事会において代表候補選手として推薦し、7月11日以降に出場権を得た場合に正式に決定する。
- (2) 日本選手権終了後(2016年6月28日以降)の追加条件
 1) 日本選手権終了後7月11日までの追加条件
 選考基準の優先順位上位の項でIAAFの定める各種目の出場可能人数を満たさなかった場合、追加条件を満たす競技者を、編成方針に基づき代表選手として追加することができる。
 2) 2016年7月12日以降のIAAF invitationによる追加(5000m、10000m以外)
 選考基準の優先順位上位の項でIAAFの定める各種目の出場可能人数を満たさなかった場合、IAAFからInvitationを受け次第、追加条件を満たす競技者を、編成方針に基づき代表選手として追加することができる。

5. 補足

- (1) 参加標準記録及び派遣設定記録の有効期間は、下記の通り。
 10000m、混成競技：2015年1月1日～2016年7月11日
 その他の種目：2015年5月1日～2016年7月11日
- (2) 本連盟が定めるInvitation 追加条件記録の有効期間は、2016年4月1日から7月11日まで。
- (3) 派遣設定記録とは、本連盟が定める、本大会で8位入賞を期待できる世界ランキング12位相当の記録。
- (4) 代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数は国際陸上競技連盟が定めるエントリー数の上限の枠を保證するものではない。
- (5) 派遣人数枠及び代表選手は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会が正式決定する。
- (6) 補欠は選考しない。
- (7) 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
- (8) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消することができる。
- (9) 本大会は、2016年8月12日～8月21日までリオデジャネイロ(ブラジル)で開催される。

第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)
 トラック&フィールド種目参加標準記録・派遣設定記録

1. トラック種目

男子			種目	女子		
派遣設定記録	参加標準記録	Invitation追加条件記録		派遣設定記録	参加標準記録	※Invitation追加条件記録
10' 01	10' 16	※リレー代表として選出選手のみ	100m	11' 09	11' 32	※リレー代表として選出選手のみ
20' 28	20' 50		200m	22' 60	23' 20	
44' 89	45' 40		400m	50' 59	52' 20	
1' 43' 98	1' 46' 00	1' 46' 10	800m	1' 58' 86	2' 01' 50	2' 01' 60
3' 32' 95	3' 36' 20	3' 37' 30	1500m	4' 02' 15	4' 07' 00	4' 07' 50
13' 30	13' 47	13' 55	110mH/100mH	12' 75	13' 00	13' 05
48' 74	49' 40	49' 60	400mH	54' 66	56' 20	56' 60
8' 14' 86	8' 30' 00	8' 31' 82	3000mSC	9' 26' 42	9' 45' 00	9' 48' 00

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
13' 06' 63	13' 25' 00	5000m	15' 06' 34	15' 24' 00
27' 31' 43	28' 00' 00	10000m	31' 23' 17	32' 15' 00

2. フィールド種目・混成競技

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
2m31	2m29	走高跳	1m93	1m93
5m70	5m70	棒高跳	4m60	4m50
8m26	8m15	走幅跳	6m84	6m70
17m21	16m85	三段跳	14m48	14m15
20m87	20m50	砲丸投	19m07	17m75
66m53	65m00	円盤投	63m94	61m00
79m11	77m00	ハンマー投	73m39	71m00
84m32	83m00	やり投	63m34	62m00
8311	8100	十種競技/七種競技	6325	6200

3. リレー種目

男子		種目	女子	
参加資格			参加資格	
2015ワールドリレーズ上位8ヶ国+IAAFランキング上位8ヶ国		4×100mリレー	2015ワールドリレーズ上位8ヶ国+IAAFランキング上位8ヶ国	
2015ワールドリレーズ上位8ヶ国+IAAFランキング上位8ヶ国		4×400mリレー	2015ワールドリレーズ上位8ヶ国+IAAFランキング上位8ヶ国	

※男子4×100mリレーは、出場権を獲得済み

資料2

第100回日本陸上競技選手権大会参加資格

1. 参加資格

2016年度本連盟登録者で、下記の(1)から(5)のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

- (1) 第99回日本陸上競技選手権大会の優勝者(但し、その種目による)。
- (2) 2015年1月1日～2016年5月29日までに指定の参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 2016年度の地域選手権が2016年5月29日までに開催された場合は、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。開催されていない場合は2015年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを有効期間内に満たした競技者。
- (4) 本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- (5) 開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。
- (6) 但し、エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、参加資格の優先順位に準じて出場者を決定する。

2. 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10" 40	10" 50	100m	11" 80	11" 90
20" 80	20" 95	200m	24" 25	24" 40
46" 60	46" 85	400m	54" 70	55" 35
1' 50" 00	1' 51" 00	800m	2' 09" 00	2' 10" 00
3' 48" 00	3' 50" 00	1500m	4' 22" 00	4' 24" 00
13' 41" 00	13' 52" 00	5000m	15' 40" 00	15' 50" 00
28' 20" 00	28' 45" 00	10000m	32' 30" 00	33' 00" 00
14" 00	14" 15	110mH/100mH	13" 85	14" 05
50" 60	50" 95	400mH	59" 00	60" 00
8' 50" 00	8' 55" 00	3000mSC	10' 25" 00	10' 35" 00
2m16	2m13	走高跳	1m75	1m72
5m30	5m25	棒高跳	3m80	3m70
7m75	7m65	走幅跳	6m05	5m95
15m90	15m75	三段跳	12m60	12m40
16m40	16m10	砲丸投	14m10	14m00
51m50	50m50	円盤投	47m00	46m00
63m50	62m50	ハンマー投	55m50	54m50
74m00	72m50	やり投	53m00	52m50

※記録の有効期間は2015年1月1日～2016年5月29日まで。

※室内競技会の記録も有効とする。

※800m(含ハードル)までの記録は電気時計(写真判定装置)で計測したもののみ有効。

※本大会は、2016年6月24日～6月26日まで愛知県名古屋市・瑞穂公園陸上競技場で開催する。

資料3

第100回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格

1. 参加資格

2016年度本連盟登録競技者で、次の(1)から(5)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む)。

- (1) 第99回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者。
- (2) 2015年1月1日～2016年5月22日までに次の参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 2016年度の地域選手権が2016年5月22日までに開催された場合、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。開催されていない場合は2015年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
- (4) 本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- (5) 開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。
- (6) 但し、エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、参加資格の優先順位に準じて出場者を決定する。

2. 参加標準記録

- (1) 男子十種競技 A 7000点 B 6900点
- (2) 女子七種競技 A 4900点 B 4800点

※参加標準記録の有効期間は2015年1月1日～2016年5月22日まで。

※公認記録は、競技規則第260条27を満たすものとする。[第260条27一部抜粋: 風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]

※本大会は、2016年6月11日～6月12日まで長野県長野市・長野市宮陸上競技場で開催する。

資料5

競技継続助成制度規程

(趣旨)

第1条 公益財団法人日本陸上競技連盟(以下、本連盟という)は、将来日本代表としての活躍が期待できる可能性を有するが、高校や大学卒業後に競技を継続する環境を作れず、陸上競技からの引

退を余儀なくされる競技者の生活費や活動費を支援し、各種目のトップ競技者層を増やすことで日本の競技力の向上を図る事を目的とし、競技継続助成制度規程(以下、本制度という)を定める。

(対象者)

- 第2条 本連盟は、将来的に日本代表として国際大会で活躍する可能性がある、学生を除く20歳以上で、原則、所得がない陸上競技者を対象者とする。但し、対象者のその他の所得は、年額100万円まで認められる。
- 2 対象者は、高校、大学、大学院等卒業後、原則3年以内の競技者とする。
 - 3 対象者は、強化委員会の推薦により、本制度選考委員の書類審査及び面接を経て、専務理事が指定する。

(処遇)

- 第3条 本連盟は、月額20万円(年額240万円)以内を、対象者に支給する。
- 第4条 本制度の指定期間は、最大で2年間とする。但し、本連盟強化委員会は、指定期間の途中でも競技実績等から判断し、日本陸上競技選手権大会の終了後や事業年度末に継続のための審査を行う。

(義務)

- 第5条 本制度の指定を受けようとする競技者は、次に定める義務を了承しなくてはならない。
- (1) 本制度の趣旨に則して競技力の向上に努める。
 - (2) 正当な理由がある場合を除き、本連盟が指定及び推薦する行事へ参加する。
 - (3) ドーピング防止活動にかかわる全ての基準を適正に順守する。
 - (4) 強化計画書や報告書などを、定められた時期までに提出する。
 - (5) 本制度の指定期間終了後の生活設計(セカンドキャリアを含む)は、自己責任とする。

(指定の解除)

- 第6条 本連盟強化委員会は、次のいずれかに該当するとき、期間途中で本制度の指定を解除することができる。
- (1) 引退した競技者
 - (2) 長期間競技会に出場しない競技者
 - (3) 居場所情報の提出義務違反や検査未了等、ドーピング防止活動の理念に反する行動をとった競技者
 - (4) 著しく義務規定に違反した競技者
 - (5) その他、本連盟が本制度の対象者として不適切であると判断した競技者

資料6

強化競技者規程

(目的)

- 第1条 公益財団法人日本陸上競技連盟(以下、本連盟という)は、オリンピック競技大会(以下、オリンピックという)及び世界陸上競技選手権大会(以下、世界選手権という)において、メダル獲得及び8位入賞が期待されると本連盟が認定した競技者の、個人強化活動の充実を図るために本規程を定める。

(格付けの基準)

- 第2条 強化競技者の格付けは2ランクとする。
- (1) ゴールドアスリート
①オリンピックまたは世界選手権の個人種目でメダルを獲得した競技者。
②ゴールドアスリート指定標準記録を満たした競技者。
 - (2) シルバーアスリート
①オリンピックまたは世界選手権の個人種目で8位入賞、及びアジア競技大会で金メダルを獲得した競技者。
②シルバーアスリート指定標準記録を満たした競技者。

(資格の付与及び見直し)

- 第3条 本連盟強化委員会は、競技者が第2条のいずれかに該当し、かつ、当該競技者が第7条に定める強化競技者の義務を承諾して本連盟との間で強化競技者契約を締結することを条件として、当該選手に対して強化競技者として資格を付与する。
- 2 強化競技者指定標準記録は、毎年度更新される。
 - 3 前各号にかかわらず、2017年4月以降の格付けの指定及び見直しの方法について、本規程が改定された場合は、それに従うものとする。

(指定の期間)

- 第4条 ゴールドアスリートの指定期間は、強化競技者としての資格を付与された翌日から2年後の事業年度末までとする。
- 2 シルバーアスリートの指定期間は、強化競技者としての資格を付与された翌日から1年後の事業年度末までとする。
 - 3 前各号にかかわらず、2017年4月以降の指定の期間について、本規程が改定された場合は、それに従うものとする。

(指定の解除)

- 第5条 本連盟強化委員会は強化競技者が、次のいずれかに該当するときは、年度途中の指定解除または強化費の使用を停止することができる。
- (1) 引退した競技者
 - (2) 故障、疾病等で長期間競技会に出場していない競技者
 - (3) 居場所情報の提出義務違反や検査未了等、アンチ・ドーピングの理念に反する行動をとった競技者
 - (4) 著しく義務規定に違反した競技者

(5) その他、本連盟が強化競技者として不適切であると判断した競技者

(処遇)

第6条 強化競技者の処遇は、別に定める。

(強化競技者の義務)

第7条 強化競技者の指定を受けようとする競技者は、次に定める義務を了し、本連盟との間で、別途、強化競技者契約を締結しなくてはならない。

- (1) 本制度の目的に即して、競技力の向上に努める。
- (2) 正当な理由がある場合を除き、本連盟が指定する国際大会に出場する。
- (3) 正当な理由がある場合を除き、本連盟が指定及び推薦する

行事に参加する。

- (4) 原則として年1回、本連盟が指定する測定及びメディカルチェックを受診する。
- (5) アンチ・ドーピングにかかわる全ての基準を適正に順守する。
- (6) 本連盟に対し、定められた時期に強化計画の提出と活動実績の報告をする。
- (7) 強化委員会が必要とした面談に応じる。
- (8) 日本を代表するトップアスリートとして自覚を持ち、メディアからのインタビュー、取材及び撮影などを受けるときは、身だしなみや服装に注意し誠実に対応する。
- (9) メディアへの対応、肖像権等に関する義務は、別に定める。

資料4 第73回(2018年度/福井)・第74回(2019年度/茨城)国民体育大会実施種目

種目	男子				女子			
	成年	A	B	共通	成年	A	B	共通
100m	○	○	○		○	○	○	
200m								
400m	○	○			○	○		
800m	○			○				○
1500m					○		○	
3000m			○			○		
5000m		○			○			
10000m								
110mH/100mH	○			○		○	○	
400mH	○	○			○			○
3000mSC								
3000m競歩								
5000m競歩				○	○			
10000m競歩	○							
走高跳	○			○	○			
棒高跳		○			○			
走幅跳		○	○			○	○	
三段跳	○			○				○
砲丸投	○		○		○			○
円盤投				○	○			○
ハンマー投		○						
やり投	○	○			○			○
4×100mリレー			○				○	
2018	男子				女子			
2019	成年	少年			成年	少年		
実施種目数	10	A 8	B 4	共通 6	11	A 5	B 4	共通 6
合計	1 (リレー)				1 (リレー)			
合計	56							

※◎の成年女子5000m競歩、成年女子走高跳および成年女子棒高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。

※参加人員(監督2名、選手29名/男子19名、女子19名以内) ※網掛けは、2016年度、2017年度実施種目。

(参考)

2016 2017	男子				女子			
	成年	A	B	共通	成年	A	B	共通
実施種目数	10	8	4	6	11	5	5	5
合計	1 (リレー)				1 (リレー)			
合計	56							

資料7 2016年度日本陸上競技連盟 強化競技者標準記録

男子		種目	女子	
ゴールド	シルバー		ゴールド	シルバー
9" 84	9" 99	100m	10" 85	11" 05
19" 86	20" 20	200m	22" 18	22" 60
44" 35	44" 76	400m	49" 74	50" 65
1' 43" 11	1' 43" 99	800m	1' 57" 45	1' 58" 73
3' 30" 18	3' 33" 02	1500m	3' 58" 66	4' 01" 98
12' 54" 44	13' 06" 40	5000m	14' 35" 17	15' 06" 88
27' 00" 86	27' 28" 76	10000m	30' 45" 19	31' 28" 90
8' 04" 02	8' 16" 28	3000mSC	9' 13" 29	9' 26" 28
13" 04	13" 27	110mH/100mH	12" 52	12" 76
48" 00	48" 74	400mH	53" 63	54" 63
2m37	2m32	走高跳	2m01	1m95
5m89	5m75	棒高跳	4m78	4m65
8m37	8m26	走幅跳	7m01	6m85
17m57	17m17	三段跳	14m78	14m44
21m77	20m87	砲丸投	19m98	18m97
68m09	66m58	円盤投	66m83	64m14
80m43	78m80	ハンマー投	76m02	73m48
87m19	84m82	やり投	66m87	63m69
8499	8299	十種競技/七種競技	6564	6350
2' 04" 56	2' 08" 10	マラソン	2' 20" 27	2' 24" 01
1' 18" 24	1' 20" 12	20km競歩	1' 26" 18	1' 29" 15
3' 40" 48	3' 44" 38	50km競歩		

資料8 2016年度 日本陸上競技連盟 強化競技者

ゴールドアスリート(4名)

No.	ブロック	氏名	所属	種目
1	投擲	新井 涼平	スズキ浜松AC	やり投
2	競歩	鈴木 雄介	富士通	20km競歩
3	競歩	高橋 英輝	富士通	20km競歩
4	競歩	谷井 孝行	自衛隊体育学校	50km競歩

シルバーアスリート(8名)

No.	ブロック	氏名	所属	種目
1	男子短距離	高瀬 慧	富士通	200m
2	男子短距離	藤光 謙司	ゼンリン	200m
3	男子長距離・マラソン	村山 紘太	旭化成	10000m
4	男子長距離・マラソン	鑑坂 哲哉	旭化成	10000m
5	競歩	荒井 広宙	自衛隊体育学校	50km競歩
6	跳躍	甲斐 好美	VOLVER	走幅跳
7	投擲	海老原 有希	スズキ浜松AC	やり投
8	女子長距離・マラソン	伊藤 舞	大塚製薬	マラソン

※2015年度中に強化競技者標準記録を満たした場合は、追加される。

強化関連情報

強化委員会

第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会（ベトナム・ホーチミン／2016）日本代表選手選考要項

1. 目標

参加者全員がメダル獲得および入賞者となるように臨む。

2. 方針

大学生を中心とした派遣構成とし、個人種目での成果を出すことを目的とする。また、最重要競技会である世界ジュニア選手権での成功を念頭においた戦略的派遣を行う。

3. 選考競技会

- (1) 2016年度高校総体各都道府県予選およびその予選大会
- (2) 2016年度日本グランプリシリーズ(神戸・広島・和歌山・静岡)
※2016日本選抜陸上和歌山大会オープン種目(男女5000m・男女3000mSC)
2016アシックスチャレンジ(男子10000m)も対象とする。
- (3) ゴールデングランプリ陸上2016川崎(2016年5月8日)
- (4) 2016年度地区学生陸上競技対校選手権大会
- (5) 2016年度地区実業団陸上競技選手権大会
- (6) 第55回全日本競歩輪島大会 男女10kmジュニア競歩(2016年4月17日：石川)
※ただし、選考委員会前に終了した大会までを対象とする。

4. 選考基準

- (1) 将来、日本代表選手として活躍が期待される競技者で、強化育成部が推薦する者

5. 選考方法

- 以下の優先順位に基づいて選考する。
- (1) 選考基準に則り強化育成部選考会議にて選考原案を作成し、強化委員長及び専務理事が承認する。
 - (2) 育成と普及に配慮して、各ブロックの派遣人数を検討する。

6. 補足

- (1) 各種目2名まで出場可能(エントリーは最大3名)。
- (2) 対象者は1997年、1998年、1999年、2000年生まれの競技者。
- (3) 本大会は、2016年6月2日から6日までベトナム(ホーチミン)で開催される。
- (4) エントリールールの詳細は、大会組織委員会からの発表後に公表する。

第16回世界ジュニア陸上競技選手権大会 日本代表選手選考要項

1. 目標

前回大会(アメリカ・ユージーン)のメダル数と同等に6個のメダル獲得を目指し、2020年の東京オリンピックで活躍できる競技者育成する。

2. 編成方針

ジュニアカテゴリーにおけるトップ競技者でチームを編成する。また、ジュニア期の育成過程を配慮し将来性を見込んだ競技者も選考し、シニアカテゴリーの強化につなげられるようにする。

3. 選考競技会

- (1) 男女5000m、男女3000mSC以外
 - 1) 2016年度高校総体各都道府県予選
 - 2) 2016年度高校総体各地区予選
 - 3) 2016年度地区学生陸上競技対校選手権大会
 - 4) 2016年度地区実業団選手権大会
 - 5) 2016年度日本学生陸上競技個人選手権大会
 - 6) 第55回全日本競歩輪島大会 男女10kmジュニア競歩(2016年4月17日：石川)

- 7) 日本ジュニア選手権混成大会(2016年6月11日～12日：長野)
- 8) アジアジュニア選手権(2016年6月2日～6日：ホーチミン)
- 9) 日本選手権(2016年6月24日～26日：愛知)
- 10) 2016日本グランプリシリーズ(2016/神戸・広島・和歌山・静岡)
- 11) ゴールデングランプリ陸上2016川崎(2016年5月8日)
- 12) 2016アシックスチャレンジ 男子10000m

- (2) 男女5000m、男女3000mSC

- 1) 2016日本選抜陸上和歌山大会 オープン種目

4. 選考基準

編成方針に基づき、種目別に下記の優先順位で日本代表選手を選考する。

- (1) 男女5000m、男女3000mSC以外
 - 1) 選考競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 2) 選考競技会で、国際陸上競技連盟(以下、IAAF)が定める参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 選考競技会以外の競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 4) 将来、日本代表選手として活躍が期待され、強化育成部が推薦する競技者
- (2) 男女5000m、男女3000mSC
 - 1) 選考競技会で、本大会の入賞が期待される記録を満たした競技者
 - 2) 選考競技会で、国際陸上競技連盟(以下、IAAF)が定める参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 将来、日本代表選手として活躍が期待され、強化育成部が推薦する競技者

5. 選考方法

- (1) 参加標準記録を満たした競技者の中から、選考基準に則り強化育成部選考会議にて選考原案を作成し、強化委員長及び専務理事が承認する。
- (2) 同じ優先順位内での資格記録の比較は、2016年度の記録を優先する。

6. エントリールール

- (1) 参加標準記録の有効期間は2015年10月1日～2016年7月11日までとする。
- (2) 種目毎の代表は、IAAFエントリールールに則り2名以内(エントリーは最大3名)とする。
- (3) 対象者は、1997年1月1日から、2000年12月31日生まれまでの競技者。
- (4) 800mまでは、資格記録として手動の記録は認められない。
- (5) 競歩種目の資格記録は、ロードでの記録も認められる。

7. その他

- (1) 選考競技会は、選考会議(2016年6月21日予定)までに終了した競技会までを対象とする。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- (3) 本大会は、2016年7月19日から24日まで開催される。ただし、大会開催地決定後に開催期日に変更される可能性もある。
- (4) 男女5000m、男子10000m、男女3000mSCの特別レースのエントリールールは、別途定める。

「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」 ～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～ 支援対象者決定のお知らせ

安藤スポーツ・食文化振興財団と日本陸上競技連盟が実施する2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」の2016年度長期活動支援の対象者に2015年度から継続して戸邊 直人（とべ なおと）選手、春休みを利用した短期活動支援の対象者にダイヤモンドアスリートをはじめとする10名の選手が決定いたしました。

「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援選手一覧

2016年度長期活動支援（2016年4月1日～2017年3月31日）

氏名	所属	種目	主な実績	渡航先
戸邊 直人	安藤財団	走高跳	シルバーアスリート 2015世界選手権出場	エストニア

2015年度短期活動支援（2016年1月1日～2016年3月31日）

氏名	所属	種目	主な実績	渡航先（予定）
佐久間 滉大	法政大学	走幅跳	ダイヤモンドアスリート 2014世界ジュニア選手権 走幅跳（5位入賞）	アメリカ（フェニックス）
岩本 武	順天堂大学	400m	ダイヤモンドアスリート	イギリス（ラフバラ大学）
高松 智美 ムセンビ	大阪薫英女学院高校	3000m	ダイヤモンドアスリート 2015アジアユース	アメリカ（ニューメキシコ大学）
桐生 祥秀	東洋大学	100m	2014世界ジュニア100m（銅メダル） 2015ワールドリレーズ4×100mR代表（銅メダル）	アメリカ（フェニックス）
ウォルシュ ジュリアン	東洋大学	400m	2015アジア選手権 4×400mR（銅メダル） 2015ユニバーシアード4×400mR（銀メダル）	アメリカ（フェニックス）
油井 快晴	順天堂大学	400m	2013世界ユース メドレーリレー（銅メダル） 2014世界ジュニア4×400mR（銀メダル）	イギリス（ラフバラ大学）
小池 祐貴	慶応義塾大学	200m	2014世界ジュニア4×100mR（銀メダル） 2015アジア選手権100m出場	アメリカ（フェニックス）
藤田 深太郎	関西大学北陽高等学校	走高跳	U19オリンピック競技育成競技者 2015日韓ジュニア 走高跳（金メダル）	スウェーデン
田中 新也	筑波大学	110mH	2012世界ジュニア 110mJH（7位入賞）	アメリカ（オーランド）
川崎 和也	順天堂大学 大学院	十種	2015日本選手権 十種競技（4位入賞）	ドイツ（マインツ大学） アメリカ（カリフォルニア）

公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団について

安藤スポーツ・食文化振興財団は、日清食品創業者の安藤百福氏が、1983年、私財を提供して設立した公益財団法人です。「走ることはあらゆるスポーツの原点である」という日本陸上競技連盟の考えに、安藤百福氏が賛同し、1985年から日本陸上競技連盟が主催する「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会」、1999年から「日清食品カップ」全国小学生クロスカントリーリレー研修大会」の後援をして頂いております。本プロジェクト実施により、陸上競技の裾野の拡大から、トップレベルの選手育成まで、より広範囲に渡り日本の陸上競技活動を支援して頂きます。

～2016年度春期募集のお知らせ～

支援内容：海外短期活動支援

募集期間（予定）：2016年3月1日（火）～4月15日（金）

支援対象期間（予定）：2016年7月1日（金）～2016年9月30日（金）の期間のうち1か月程度

対象人数（予定）：10名程度

※詳細は、安藤スポーツ・食文化振興財団HP（<http://www.ando-zaidan.jp>）にて公開予定です。

2015年度競技運営委員会研修会報告 JTOs・JRWJs 育成セミナー

競技運営委員会

期日：2015年11月21日（土）、22日（日）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

第1日目（11月21日）

○あいさつ 尾縣 貢 専務理事

- ・2020年のオリンピックに向け①日本競技者の競技力の向上②日本らしい競技運営、JTOsを核とした運営等準備を進めている。また、JRWJsは運営+強化が必要であり、審判員の技術向上も必要である。
- ・2日間の研修を宜しく願う。

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・競技会は、競技規則により運営される。JTOsにおいては、規則の理解と共にルールブックに該当事項が記載されているか等の知識を深めて頂きたい。

(JTOs 育成セミナー)

○研修Ⅰ 総務関係 田中 康之 競技部委員

- ・総務関係、JTOsの制度・役割、公認競技会の要件、総務、総務員、上訴、審判長、商標コントロール、トラブル事例について解説。

○研修Ⅱ トラック競技関係

関根 春幸 競技運営副委員長・競技部長

- ・トラック競技を担当する上で必要となる基本事項、不正スタート、番組編成、グループスタートの位置について解説。
- ・男女混合レース、ハードルの判定、直走路の判定、日本記録、アジア記録、世界記録、黄旗が上がらない場合、写真判定装置に不具合があった場合、リレーのルールについて解説。

○研修Ⅲ 跳躍競技 宮田 英明 審判部委員

- ・跳躍競技を担当する上で必要になる基本事項、助力、試技の回数、予選、遅れ、試技時間（演習）、バーの上げ方、ジャンプオフ、同成績、棒高跳、走高跳、走幅跳の無効試技、有効試技、無効試技、同時申し込み、実際例を交えた競技運営上の留意点について解説。

○研修Ⅳ 投てき競技 赤峰 俊彦 競技部幹事

- ・投てき競技を担当する上で必要になる基本事項、ルール、競技開始前・公式練習中・試技中・競技終了後のポイント、事例集（こんなときどうする）について解説。

○研修Ⅴ 混成競技・記録公認、その他について

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・混成競技、室内競技、道路競技、競歩競技、記録の公認、トラック競技の逆走、黄旗が上がらずに失格になること、助力、用器具、ハードルの設置、ハンマー投専用囲いなどについて解説。

(JRWJs 育成セミナー)

- 研修Ⅰ 競技会規則の理解 佐藤 孝洋 審判部委員
・競歩の競技規則の変遷、現規則の競歩競技の定義、ロス・オブ・コンタクトとベントニーの判定のポイントについて解説。

- 研修Ⅱ 競歩競技種目の運営 宇井 菜那 JRWJ
・競歩競技会の運営、競歩審判員主任・競歩関係競技役員の業務内容や責務などについて解説。

○研修Ⅲ ピットレーンルールと運用

藤崎 明 審判部委員

- ・11月1日IAAFで施行されたピットレーンについて解説。

○試験Ⅰ 筆記試験 90分

○試験Ⅱ 判定実技 60分

○試験Ⅲ 論述試験 30分

○研修Ⅳ 歩型判定の技術 三浦 康二 JRWJ

- ・北京世界選手権等の国際大会のビデオで国内外の競技者の歩型について解説。

第2日目（11月22日）

(JTOs 育成セミナー)

○試験Ⅰ 規則・運営方法に関する記述試験 120分

○試験Ⅱ 問題解決方法に関する論述試験 90分

○試験の解説 岩崎義治 審判部長

- ・試験Ⅰ（記述試験）の解説。

鈴木一弘 理事・競技運営委員長

- ・試験Ⅰ及び試験Ⅱ（記述試験）の解説。

(JRWJs 育成セミナー)

○研修Ⅴ ピットレーンの実際（実技）

○研修Ⅵ 試験の解説 藤崎 明 審判部委員

- ・ビデオ判定について解説。

○研修Ⅶ ピットレーンの振り返りと今後の運用（自由討議） 佐藤 孝洋 審判部委員

- ・受講者からの意見、競技者の意見を聞き取り、今後の参考とした。

○講評と修了証授与

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・2020年東京オリンピックを見据え、JTOs、JRWJsの増員を考えている。
- ・JTOsは主任クラスの審判員を、JRWJsはIRWJsとともに周りを固めていく。以上のような自覚を持ち活動に当たっていただきたい。競歩は強化の面も含めてJRWJsとして力を発揮していただきたい。
- ・委員長が修了証を代表者に手渡し、セミナーが終了した。

2015年度全国区域技術役員会議報告

施設用器具委員会

日時：2015年11月21日（土）12：30～17：00
22日（日）9：00～15：00

場所：（会議）日産スタジアム・横浜市スポーツ医科学センター3階
大研修室・会議室
（実技）日産フィールド小机（日産スタジアム補助競技場）

出席者：施設用器具委員会委員（11名）神奈川検定員（1名）

都道府県推薦技術役員94名

陸連事務局 関幸生 井上博友 浅田大吾 小原由美子

施設用器具委員会では、全国検定会会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、2015年度は技術役員会議を開催した。各都道府県陸協より94名が推薦（新規15名）され、2日間の会議に参加した者が2016・17年度の技術役員として活動していくことになる。以下は2日間の会議の概要である。

【第1日】 司会（飯村光夫幹事）

◇配布物…全国技術役員会議資料冊子 申請用紙一式 記録用紙一式（改訂版）

◇開会の言葉 大島嶺副委員長

◇挨拶 尾懸貢専務理事

2013年に東京オリンピック決定後準備を進めている。ロシアのドーピング問題・パリのテロ問題等あり、より一層の準備が求められている。世界でこれだけ施設が充実している国はない。しっかりと研修していただきたい。

◇挨拶 平塚和則委員長

北海道から沖縄まで94名の方が出席。新人15名。20年を越す人が6名。20年やっても検定の業務を完璧にこなすことはできない。習うより慣れるです。皆さんと一緒に技術を高めていきたいと思います。

◇会議

1. 陸上競技場・長距離競走路検定の実技（講師：本部検定員）
13：00～16：00の3時間。経験年数により6つの班に分かれ、距離計測・レベル計測・角度計測・施設計測・長距離競走路ワイヤー計測の実技を行った。
2. 技術役員の心構えと検定に関する注意事項（平塚和則委員長）
 - （1）技術役員の役割・心得
 - （2）各種申請の留意事項
申請書は3ヶ月前に出し、早く出すならその理由を確認する。
 - （3）保留・条件付きの事例
保留→不合格・条件付→1年以内に改修して再検定と言う意味。
 - （4）指導に関する考え方
各県の担当者が直接陸連に来ることが多い。指導願が必要。
 - （5）最近の課題
人工芝について、現在は4種のみ。投てき対応の芝も検定中。マラソンコースでコースを勝手に変更して行った公認を取り消すことがある。技術役員は用器具・技術総務・公式計測に携わるように。

【第2日】 司会（飯村光夫幹事）

◇会議

1. 陸上競技場検定の基礎知識

A班…距離計算の基礎知識・計算方法（講師：米岡利昌検定員）

B班…距離計算・報告書作成テスト（講師：苅込英昭検定員）

経験年数によりA班B班に分かれて、陸上競技場検定の基礎知識

の説明・距離計算の方法を学んだ。最後にはテスト形式で距離計算・報告書作成に取り組んだ。

2. 検定報告書等の適正な記入方法（講師：鈴木存特別委員）

月に2～3回委員会を実施し、報告書を確認している。ベテランほど間違える。今は4種競技場は技術役員に任されている。こちらで訂正している部分もあるがひどいものは送り返す。回数をやらないと慣れない。県によっては検定数が少ない所もあるのでしっかりとやる時には確認する。

検定報告書の記入方法について例を挙げながら説明を行った。

3. 競技会での用器具の検査（講師：小池一好特別委員 高沼正利検定員）

競技会での用器具（砲丸・円盤・ハンマー・やり）検定の説明、ハードル検定についての説明を実際に器具を用いて行った。

公式計測員が検査をし技術総務に報告する。皆さんにも現場でやってほしい。

4. 規則等の変更に伴う対応（講師：高木良郎副委員長）

1) 第1種・第2種公認競技場の基本仕様の対応（B競技場の取り扱い）

2017年3月（来年度末）までに解消しない場合は降格となる。一覧にない競技場でも該当する競技場はないか地元でよく確認してほしい。

2) 2015年度の施設用器具委員会関係の規則改正

「公式計測員が投てき器具の検査を行い技術総務に報告すること」「グループスタート時の線石の置き方は1本おき」「全面改修するトラックもレーン幅1.220mとすること」「1種以外でもIAAFクラス1クラス2を申請できることになった」「長距離競走路競走路において、公認大会を開催するコースのみが公認長距離競走路と認定される。」等の確認を行った。

3) すでに規則改正された施設・用器具の対応

4) 新メジャーの取り扱い

温度による変化が大きいのので取扱いに注意すること。破損の場合は各自で修理を。

5. 長距離競走路の検定方法（講師：福島信久幹事）

1) 道路競技の記録と競走路の基準

2) 自転車計測とワイヤー計測の区分

3) 検定の事前調整（ワイヤー計測・自転車計測共通）

4) ワイヤー計測の方法と注意事項

5) 検定時の作業

大会当日と同じコースを計測する。安全に計測を行う。報告書をしっかり作成する。

6. IAAFの動向と世界陸上北京大会（講師：陸連事務局 関幸生部長）

◆規則改正◆IAAF認証制度と日本陸連公認/検定◆自転車計測とIAAF◆人工芝の検討動向◆2014年の事例◆世界陸上北京大会の事例について実際に写真を用いながらの説明を行った。

◇質疑応答

◇修了証授与 代表で山村氏（新潟）に修了証を授与

◇閉会 高木良郎副委員長

2日間お疲れ様でした。いつもと違う時期に行いましたが今回学んだことを活かして検定業務に携わってほしい。



日本陸連アスレティック・アワード2015報告

事務局

◆年間表彰式、日本陸連アスレティック・アワード2015を開催

2015年12月16日(水)に「日本陸連アスレティック・アワード2015」をザ・プリンスパークタワー東京において開催しました。

本表彰式は、その年の日本選手権・優勝者の栄誉を称えんとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰するもので、今回で9回目の開催となりました。

当日は、選手48名と、日ごろ陸上競技者をご支援いただいているスポンサー各社、関係者の方々 総勢230名にご出席を賜り、受賞者をお祝いするとともに、ご出席者同士での交流を深められておりました。

(式次第)

1. 主催者挨拶	横川 浩	公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
2. 来賓挨拶	森 喜朗	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会長
	武田 信二	株式会社TBSテレビ 代表取締役社長
3. 表彰の部		
新人賞	発表者	山伏 広治 公益財団法人日本陸上競技連盟 理事
	授与者	鈴木 敦史 東京運動記者クラブ 代表幹事
特別賞	発表者	河野 洋平 公益財団法人日本陸上競技連盟 名誉会長
	授与者	河野 洋平 公益財団法人日本陸上競技連盟 名誉会長
優秀選手賞	発表者	友永 義治 公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
	授与者	八木 雅夫 公益財団法人日本陸上競技連盟 副会長
アスリート・オブ・ザ・イヤー	発表者	横川 浩 公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
	授与者	横川 浩 公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
4. 歓談の部		
アトラクション	乾 杯	尾山 基 株式会社アシックス 代表取締役社長CEO
		* 日本記録樹立者インタビュー (砲丸投: 畑瀬聡選手、やり投: 海老原有希選手、世界選手権女子4×400mリレー日本代表メンバー: 青山聖佳選手、市川華菜選手、千葉麻美選手、青木弥沙佳選手)
		* 世界記録樹立者インタビュー (20km競歩: 鈴木雄介選手)
		* ファン投票「Most Impressive Athlete 2015」表彰
御礼挨拶	尾縣 貢	公益財団法人日本陸上競技連盟 専務理事



横川浩会長

口耕太郎選手(中央大学)を選出しました。

特別賞には、二人が選出されました。ひとりには、有森裕子さん。同氏は、1992年バルセロナオリンピック女子マラソンで銀メダル、1996年アトランタオリンピックで同種目銅メダルを獲得し、競技者として輝かしい成績を残しました。現役引退後、ハート・オブ・ゴールドでのカンボジアにおけるスポーツを通じた自立支援活動や、知的障害者にスポーツの場を提供する国際的なスポーツ組織であるスペシャルオリンピックス日本の理事長に就任し、障害者スポーツの普及に貢献するなど、幅広く社会貢献をされている実績が評価されました。もうひとりには、宮崎秀吉さん 105歳。同氏は長きにわたり、陸上競技に取り組み、特にマスターズ陸上競技大会において輝かしい成績を修めてきました。2015年9月に開催された京都マスターズ秋季記録会の105歳から109歳の部で、100m 42秒22、砲丸投 3m25の世界記録を樹立。日々の鍛錬を怠ることなく取り組み続けてきた賜物であり、まさに生涯を通じたスポーツの実践者としての鑑です。

そして新人賞には、東京運動記者クラブから、2015年7月の第9回世界ユース陸上競技選手権大会(カリ)で同種目日本人初となる金メダルを獲得した女子やり投の北口榛花選手(旭川東高校)が、男子は、同大会100m(10秒28)、200m(20秒34)と両種目大会新記録で2冠に輝いたサニブラウン アブデルハキーム選手(城西高校)が東京運動記者クラブと日本陸上競技連盟からの選出となりました。サニブラウン選手は北京世界選手権の200mにおいては最年少で準決勝進出を果たすなど大きく飛躍。また11月には国際陸上競技連盟の『RISING STAR AWARD』にも選出されるなど国際的にもその活躍が評価されました。

受賞者のスピーチ: 表彰順

新人賞: 北口 榛花(旭川東高校)

※東京運動記者クラブ選出

今回はこのような賞をいただき、ありがとうございます。

私自身、高校から陸上を始めて、ここまで活躍できるとは思っていなかったので、今日をまた新たなステップにして、これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお祈りします。

新人賞: サニブラウン アブデルハキーム(城西高校)

※東京運動記者クラブ・

日本陸上競技連盟選出

今回はこのような素晴らしい会にお招きいただきありがとうございます。このような賞を受賞できて、自分としてはとても嬉しいです。

来年もオリンピック、世界ジュニア等頑張っていきたいと思うので、応援よろしくお祈りします。

特別賞: 有森 裕子

本日はこのような素晴らしい賞をまさかいただけるとは思わず、電話を頂いた時は「プレゼンターですか?」と聞き直したくらいで、本当に私が頂いてもいいのかな



北口榛花選手



サニブラウン アブデルハキーム選手



有森裕子氏

2015年受賞者

アスリート・オブ・ザ・イヤーは谷井孝行選手

2015年のアスリート・オブ・ザ・イヤーに輝いたのは第15回世界陸上競技選手権大会(北京)で同種目オリンピック、世界選手権を通して初となる銅メダル獲得を果たした50km競歩の谷井孝行選手(自衛隊体育学校)。昨年の第17回アジア競技大会(仁川)での金メダルに続き国際大会2年連続のメダルを獲得。リオデジャネイロオリンピック日本代表にも内定するなど2015年の活躍は素晴らしいものでした。

優秀選手賞には、同じく北京世界選手権50km競歩で4位入賞を果たした荒井広宙選手(自衛隊体育学校)、同大会女子マラソンで7位に入賞し、リオデジャネイロオリンピック代表に内定した伊藤舞選手(大塚製薬)、第39回全日本競歩能美大会で世界記録を樹立した鈴木雄介選手(富士通)、更には第2回ワールドリレーズ(ハワイ)において男子4×100mリレーで銅メダルを獲得し、リオデジャネイロオリンピック出場権を獲得した日本代表メンバーの大瀬戸一馬選手(法政大学)、藤光謙司選手(ゼンリン)、桐生祥秀選手(東洋大学)、谷

と思ったほどです。

私がこのような活動を色々な意味で色々な角度からできるようになったのも、ここにいらっしゃる全ての方の支えと応援があったからだと思います。

私がスポーツ、マラソン、陸上に出会わなければこのような人生は切り開けなかったと思っています。こういった機会を通して、これからも、スポーツが持つ力、スポーツによって何が出来るか、どう出来るかを、頑張って伝えていきたいと思っています。

そして日本という国がいかに豊かであるか、その豊かな日本の選手が、他の国や他の人たちへ、力と勇気と夢を作っていくのだからということを、この会場にいる後々の素晴らしい夢を持ったアスリート達にも伝えていけたらと思います。

皆さんもこれから頑張ってください。

そしてこの会場にいらっしゃる皆さん、本当にありがとうございます。

特別賞：宮崎 秀吉

このような立派なお祝いをしていただきまして、感謝感激です。

今、105歳になったところです。

ただいま皆さんから頂いたありがたい言葉をしっかりと胸に置いて、これからも元氣を出して頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。

優秀選手賞：荒井 広宙 (自衛隊体育学校)

本日はこのような素晴らしい賞を頂きまして、本当にありがとうございます。

今年の世界選手権では4位ということで、結果的には嬉しさ半分、悔しさ半分ということで、まだまだ自分はやれるぞ、という強い気持ちを持つことが出来る大会でした。

来年はリオオリンピックがありますが、まずは出場権を獲得して、オリンピックでは今回の世界選手権以上の結果を残せるように、頑張っていきます。また皆様の応援をどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

優秀選手賞：伊藤 舞 (大塚製薬)

このような賞をいただき、ありがとうございます。とても嬉しく思います。

私はこの2、3年体調不良やケガが多くて、うまくいかないこともありますが、あきらめないでやってきてよかったと思う一年でした。

来年のオリンピックに内定しています。スタッフ、関係者の皆様、応援して下さる皆様の力を借りて、しっかり準備をして大会当日を迎えたいと思います。今日はありがとうございました。

優秀選手賞：鈴木 雄介 (富士通)

本日はこのような賞をいただきありがとうございます。とても光栄に存じ上げます。今年3月に世界記録を出すことができ、このような賞をいただける本場に大きい一年となりました。

先ほど特別賞を受賞された宮崎さんは105歳で世界記録を出しています。

僕も27歳になり、そろそろベテランという歳になってきましたが、105歳に比べればまだまだ若い歳だと思

ますので、40歳ぐらいになっても世界記録を出せるような選手に成長して、いつまでもトップで走り続けられる、そして世界大会で金メダルを取れるような選手になっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

本日はどうもありがとうございます。

優秀選手賞：4×100mリレー

大瀬戸 一馬 (法政大学)、藤光 謙司 (ゼンリン)、桐生 祥秀 (東洋大学)、谷口 耕太郎 (中央大学)

(※代表して藤光選手がコメント)

本日はこのような素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。

リレー種目でのメダル獲得は北京オリンピック以来ということになると思うのですが、今まで短距離チームとして取り組んできた成果が一つの結果となったのではないかと思います。

ただ、夏の世界陸上では予選敗退ということで、まだまだ力不足・準備不足というのを感じる結果となりました。

その中でも、桐生君の追い風参考9秒台であったり、ハキーム君の世界ユース2冠であったり、僕達の世界陸上での200m3人史上初セミアイナル進出など、個人でも世界と戦えるのだという手応えをつかめたシーズンだったと思いますので、来年のリオオリンピックではその手応えをしっかりと結果として残せるように、個人のファイナル、リレーでの表彰台等、今年以上の結果を目指せるように頑張りたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。

アスリート・オブ・ザ・イヤー：

谷井 孝行 (自衛隊体育学校)

本日はこのような名誉ある賞をいただき、本当にありがとうございます。

今、数年前のことを思えば、このような賞がいただけるということは本当に想像できなかったことで、競技を諦めなくなった時もありましたが、多くの方々に支えられ、多くの方々に応援していただいて、それを力にして今の自分があるのだと思います。本当に感謝しています。ありがとうございます。

今回世界陸上でメダルを獲得しましたが、まだまだ上には二人います。記録面でもまだまだ強い選手はたくさんいます。リオでメダルを獲得するためにもこの世界選手権のメダルを通過点にしなければならぬと思っています。さらなるレベルアップを求めて、上があるかぎり、向上心を持って精一杯頑張っていきたいと思っています。

今後とも応援よろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。



宮崎秀吉氏



荒井広宙選手



伊藤舞選手



鈴木雄介選手



藤光謙司選手



谷井孝行選手



2015数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)

事務局

2015数字で見る陸上競技、3回目の今回は陸上競技における日本体育協会公認スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。なお、今回ご紹介する数字は、2015年12月18日付け登録者数です。

NO.	都道府県名	JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		合計
		日体協公認 指導員	日体協公認 上級指導員	日体協公認 コーチ	日体協公認 上級コーチ	
1	北海道	33	0	13	11	57
2	青森県	16	3	10	5	34
3	岩手県	22	1	20	8	51
4	宮城県	22	0	6	2	30
5	秋田県	14	0	8	0	22
6	山形県	33	0	16	6	55
7	福島県	123	0	23	3	149
8	茨城県	22	0	21	11	54
9	栃木県	12	0	13	5	30
10	群馬県	67	1	23	3	94
11	埼玉県	82	2	39	14	137
12	千葉県	50	3	39	12	104
13	東京都	152	3	55	33	243
14	神奈川県	54	0	33	9	96
15	山梨県	32	11	12	4	59
16	新潟県	44	9	23	4	80
17	富山県	61	0	9	1	71
18	石川県	29	1	5	3	38
19	福井県	62	0	18	2	82
20	長野県	33	3	26	5	67
21	静岡県	66	6	21	6	99
22	愛知県	50	0	28	6	84
23	岐阜県	18	5	13	4	40
24	三重県	39	2	23	4	68
25	滋賀県	15	0	23	4	42
26	京都府	30	0	30	4	64
27	大阪府	29	3	12	5	49
28	兵庫県	32	2	13	5	52
29	奈良県	14	0	13	2	29
30	和歌山県	75	0	10	6	91
31	鳥取県	32	0	7	4	43
32	島根県	10	0	5	3	18
33	岡山県	15	0	16	6	37
34	広島県	81	3	18	8	110
35	山口県	32	2	13	5	52
36	徳島県	16	1	5	1	23
37	香川県	10	0	16	3	29
38	愛媛県	22	0	18	7	47
39	高知県	22	1	14	1	38
40	福岡県	49	4	12	10	75
41	佐賀県	11	1	5	2	19
42	長崎県	14	9	14	2	39
43	熊本県	27	2	11	7	47
44	大分県	22	19	12	3	56
45	宮崎県	56	3	16	0	75
46	鹿児島県	44	0	18	2	64
47	沖縄県	23	4	4	4	35
合計		1,817	104	802	255	2,978

大会観戦ガイド

第35回大阪国際女子マラソン大会 兼第31回オリンピック競技大会 (2016 / リオデジャネイロ) 女子マラソン代表選手選考競技会

- ▼日時：2016年1月31日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
大阪・ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500
- ▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所～御堂筋・道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町～ヤンマースタジアム長居(42.195km)
- ▼アクセス：ヤンマースタジアム長居
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、
JR阪和線「長居」駅または「鶴ヶ丘」駅下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系（全国ネット）
1月31日（日）12時00分～
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL：06-6633-9632
- ▼大会ホームページ：http://www.osaka-marathon.jp/



昨年度のスタートの様子

第1回全国中学生クロスカントリー選手権大会 千葉クロスカントリー大会 X-RUN CHIBA 2016 兼世界大学クロスカントリー選手権 代表選手選考競技会

- ▼期日：2016年2月14日（日）
- ▼会場：千葉・千葉市「昭和の森」
千葉市緑区土気町22 TEL：043-294-2884
- ▼アクセス：
JR外房線土気駅南口から千葉中央バス「あすみが丘プランニューモール」行きで「昭和の森西」下車徒歩5分。
又は、あすみが丘東4丁目（ホキ美術館前）で下車徒

歩3分。（当日土気駅北口～昭和の森無料臨時バスの便あり）

- ▼種目・スタート時刻
9：00 X-RUNファミリー 1km
9：15 X-RUNキッズ 1.5km
9：40 オープニングセレモニー
9：50 X-RUN 4km
10：30 X-RUN 8km
11：45 県クロカン高校男子3km（※千葉陸上競技協会主催大会）
12：10 中学生女子の部 3km
13：00 中学生男子の部 3km
13：40 世界大学クロカン選考レース 女子6km
14：15 世界大学クロカン選考レース 男子12km
- ▼問合せ先：
 - （1）中学生選手権の部
日本陸上競技連盟 事務局
TEL：03-5321-6580
 - （2）X-RUNの部
千葉クロスカントリー大会 X-RUN CHIBA 2016
大会問い合わせ窓口
TEL：03-5974-1192
 - （3）世界大学クロカン選考レースの部
公益社団法人日本学生陸上競技連合
TEL：03-5304-5542
- ▼大会ホームページ：
http://www.jaaf.or.jp/taikai/1296/





JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5-4-18
 コーポランド西川田駅前ビル103
 TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
<http://www.jaaf Tochigi.jp/>

今年度もトラックシーズンが終わり、マラソン・駅伝シーズンとなり各種大会において本県選手の活躍を期待しております。

2015年11月8日に福島県で実施された東日本女子駅伝は、本県過去最高記録で第3位と見事入賞することができました。

また、全国での都道府県駅伝大会・高校駅伝大会・中学校駅伝大会等選手がそれぞれの大会で力走し活躍していただきました。

県内大会においても大田原マラソン大会(2015年11月23日)・日光ハイウェイマラソン大会、日光いろは坂女子駅伝大会(2015年11月28日・29日)・元気あっぷマラソン大会(2016年1月10日)等に多くの参加者を迎え、すばらしい記録で大いに盛り上がった大会が開催されました。

さて、2022年に本県で開催される第77回国民体育大会の新スタジアム新築工事が本年より始まり、慌ただしくなる年度に入っております。

さらに、第77回国民体育大会に向けて競技力の向上・審判技術の向上などの諸問題に対処すべく審判・財務・強化・施設用器具・新規事業検討ならびに障害者スポーツ大会準備の委員会を設置し、本県陸上協会へ貢献していきたいと考えております。

(文責：理事長 大谷津薫)

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30 上尾運動公園陸上競技場内
 TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
<http://sairiku.net/>

11月15日(日)に第1回さいたま国際マラソン兼第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)女子マラソン代表選手選考競技会が、さいたまスーパーアリーナスタート・フィニッシュで開催されました。日本代表チャレンジャーの部(フルマラソン女子)に525名、一般(サブ4)の部(フルマラソン男女)に5582名、合計6107名の参加で、午前9時10分、横川浩日本陸連会長の合図でスタートしました。スタート時は、曇り空でしたが、まもなくして太陽が出てこの時期としては、気温の高いレースコンディションとなりました。

レース結果は、アツェデ・バイザ選手(エチオピア)が2時間25分44秒のタイムで優勝。2位には、地元埼玉出身(川越女子高校)の吉田香織選手(ランナズバルス)が2時間28分43秒のタイムで入りました。

今回埼玉県で初めての日本陸連主催のマラソン大会で、埼玉陸協としては約一年前より日本陸連と連絡を取り準備を進めてきました。無事大会を終えることができたことは、日本陸連を始め、関係各位の協力があつたからだと思えます。来年以降も、記録が出てすばらしい大会運営になるよう、埼玉陸協として努力していきたいと思えます。

(文責：総務委員会 木村一也)

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店気付
 TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
<http://gold.jaic.org/gunma/index.html>

紀の国わかやま国体結果

天皇盃6位 3位までの入賞者は、以下のとおり

少年女子共通棒高跳：諸田実咲1位 成年男子砲丸投：畑瀬聡1位
 成年女子5000m：西原加純1位 少年女子A400m：岩田優奈1位
 成年男子400mH：杉町マハウ2位 少年男子A棒高跳：上原響2位
 少年共通800m：神戸航輝3位 成年男子走幅跳：菅井洋平3位

また、25回目をむかえた「ぐんま県民マラソン」が、今までのハーフマラソンが、今年度より公認フルマラソンコースとなりました。フルマラソン4,193人・公認10kmマラソン3,091人・リバーサイドジョギング4,2195km6,069人が完走しました。沿道の住民・商業施設の皆様には、多大なるご迷惑をおかけしたことを紙面をかりてお詫び申し上げます。また、ご協力いただきました関係諸団体・ボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。



JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
 千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
 TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
<http://www.jaaf-chiba.jp/>

ロードレースのシーズンを迎えました。本県では新たな大会として、第1回全国中学生クロスカントリー選手権大会が2月に開催されます。出場の皆様の御健闘を期待しています。

第31回東日本女子駅伝では、過密な日程の中、中学・高校・一般選手ともに優勝を目標にしたベストメンバーを選出することができました。レースは、1区で53秒差と出遅れましたが、2区木村選手、6区関谷選手、8区保科選手の区間賞の力走もあり、1位で襷を受け取った最終区桑原選手が自信あふれる走りを見せ、本県チーム最高記録の2時間17分27秒で2年ぶり8回目の優勝を果たしました。補欠選手を含めたスタッフ全員が「チーム千葉」として、優勝を目標に攻めのレースで挑んだ結果です。年明けの京都・広島全国都道府県対抗駅伝も女子・男子共に入賞を目指します。



事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連ファン投票「Most Impressive Athlete 2015」結果のお知らせ◆◆

「2015年最も印象に残ったアスリートは誰だ!？」というテーマにて本連盟で初めてのファン投票を実施し、4339票の応募をいただきました。ありがとうございました。今回は上位3選手をご紹介します。

- 第1位 大迫傑 (NIKE OREGON PROJECT)
- 第2位 サニブラウン アブデルハキーム (城西大学附属城西高校)
- 第3位 鈴木亜由子 (日本郵政グループ)

その他の結果と上位3選手のコメントはこちらでご確認ください。

<http://www.jaaf.or.jp/fan/news/2015/mia.html>

◆◆マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条◆◆

全国各地でマラソン大会が開催され、マラソンシーズン真っ盛りを迎えておりますが、レース参加に当たっては、下記、「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条」をよくお読みの上、ご参加ください。

1. 普段から十分な栄養と睡眠をとりましょう。
2. 喫煙習慣をやめましょう。
3. メディカルチェックを毎年受けましょう。
4. 生活習慣病がある方は、かかりつけ医とよく相談しましょう。
5. 計画的なトレーニングをしましょう。
6. 気温、湿度に適したウエアの着用と、適切な水分補給をしましょう。
7. 胸部不快感、胸痛、冷や汗、フラツキなどがあれば、すぐに走るのを中断しましょう。
8. 足、膝、腰などに痛みがあれば、早めに対応しましょう。
9. 完走する見通しや体調に不安があれば、やめる勇気を持ちましょう。
10. 心肺蘇生法を身につけましょう。

また、本連盟WEBサイト・医事委員会のページに「市民マラソン・ロードレース申込み時健康チェックリスト」を掲載しています。

<http://www.jaaf.or.jp/medical/healthcheck20130411.pdf>

こちらもお読みの上、ご参加ください。



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 原田 康弘 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘

◇時報編集担当

- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 高橋 祐哉
- 小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>